



## 岩手県立高田高等学校

施工地／岩手県陸前高田市高田町字長砂78-12  
竣工年月／平成27年3月  
敷地面積／13,039.00m<sup>2</sup>

●校舎・産振棟  
延床面積／7,132.72m<sup>2</sup>  
構造／鉄筋コンクリート造4階建

●第一体育館  
延床面積／1,263.00m<sup>2</sup>  
構造／鉄骨造平屋建

●第二体育館  
延床面積／1,471.95m<sup>2</sup>  
構造／鉄骨造2階建

●実習棟  
延床面積／487.33m<sup>2</sup>  
構造／鉄骨造平屋建



落ち着いた木質内部空間



明るく開放的な交流ホール



200名を収容する大講義室



図書室



第一体育館



第二体育館



第二体育館・1階防災対策室



第二体育館・1階柔剣道場



第二体育館・2階アリーナ

## 市民待望の新校舎完成

岩手県沿岸南部の陸前高田市は、平成23年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災において、地震後に発生した巨大津波が市内全域に押し寄せ、白砂青松の景観で知られる高田松原や中心市街地の商店街・家屋などすべてが飲み込まれ未曾有の被害を受けました。岩手県立高田高等学校も同様に校舎3階天井付近まで浸水し、校舎や体育館のほか産振施設が全壊するなど一瞬にして多くの大切なものを失うこととなりました。

震災後の5月からは隣の大船渡市にある大船渡東高校萱中校舎を仮校舎として授業を再開しましたが、多くの生徒が長時間のバス通学により不便と負担を強いられるなど陸前高田市内での校舎再建は急務となっております。

震災から4年後の平成27年3月に旧校舎裏の高台に移転完成しました岩手県立高田高校新校舎は、安心・安全な学習環境の構築はもとより、陸前高田市の復興の担い手となる人材育成と地域復興のさきがけとなる施設として計画されました。学習と生活の場となる校舎内は岩手県産の木材を多用し温かみを感じる潤いある空間とし、廊下と一体化した明るく開放的な交流ホールとともに、生徒たちの活力ある学校生活を支えます。避難所としての役割を担う体育館は災害緊急時の機能強化として第二体育館に防災対策室を配置、男女別のシャワー設備や簡易厨房、防災倉庫を設け災害時の避難所機能を十分に果たします。



被災しました旧校舎裏の高台に新しい校舎は再建されましたが、いまだに校舎前の学校グラウンドには多数の仮設住宅があり、多くの市民の方が避難生活をされています。

### 平面図

